



心のビタミン No.172



古事記の中の阿波

代々の天皇が即位される大嘗祭のとき「阿波の献上料理」が差し出されていたことをご存じだろうか。当時は奈良時代。編纂された「古事記」を詳細に読むと、他の地域ではなく阿波徳島に縁がある地名や証拠が余りにも数多くみられる。

日本の「国生み」伝説では伊耶那岐と伊耶那美が天浮橋から天沼矛で大地をかき混ぜて淡路島から四国が完成した。古事記や日本書紀では、四国は「伊予之二名島」と呼ばれ、東が伊の国、西が予の国だ。愛比売（伊予）、飯依比古（讃岐）、大宜都比売（阿波）、建依別（土佐）と呼ばれた。研究が進むに従って、国生みに島根一帯は記載がなく、阿波一国内に関わる可能性が高いと明らかになってきた。詳しい情報が公開されているので興味がある方はアクセスできる。

古代のロマンに触れ、我々は何を学ぶべきか？ 神山には天岩戸に相当する巨大な岩がある。お隠れになった天照大神が、楽しそうな歌舞音曲に誘われて姿をみせ世界は光に包まれた。これが阿波踊りの原形かも。古来日本人は天岩戸を開けるように、助け合い苦難を乗り越え、明るい社会を築いてきたといえよう。

本伝説は、現代なら音楽療法と医療、相互扶助に相当するかもしれない。近々古事記と健康の講演会が企画されている。いちど参加されてはいかがだろうか。

（医師・音楽家 板東 浩）

古事記に書かれる
食の国阿波
食事の工夫と健やかな人生